

2026年5月21日

株式会社イー・ラーニング研究所

約9割が「日常生活の中で環境問題を意識している」と回答！ 「環境問題などに関する意識調査」

～親子で共に学べる体験型環境教育を、教育現場に期待する声が多いことが明らかに～

e-ラーニングに関するサービスの様々なコンテンツを提供する株式会社イー・ラーニング研究所(代表取締役:吉田智雄、本社:大阪府吹田市 以下、イー・ラーニング研究所)は、子どもがいる親世代を対象に「環境問題に関する意識調査」を実施いたしました。

その結果、約9割の保護者が環境問題を身近な課題として認識しており、日々の生活の中で環境に配慮した行動を意識していることが分かりました。また、子どもも環境問題に関心を示していると感じる保護者も多く、子どもだけが体験するのではなく、親子と一緒に体験・対話しながら学べる場を教育現場に求める声が高まっていることがうかがえる結果となりました。

【「環境問題に関する意識調査」概要】

調査方法 : 紙回答

調査期間 : 2026年4月3日(金)～4月22日(水)

調査対象 : 子どもを持つ親、親族に子どもがいる方 計217人

※本リリースに関する内容をご掲載の際は、必ず「イー・ラーニング研究所調べ」と明記してください

調査結果概要

- ① **保護者の9割以上がSDGsや環境問題に関心を寄せていることが、明らかに！
家庭での環境教育への意識の高さがうかがえる結果に。**
⇒約9割の保護者が、SDGsや環境問題(地球温暖化、プラスチックごみ等)に対する関心度があると回答。環境問題は「社会的な課題」から「家庭内で共有される身近なテーマ」へと移行していることがうかがえる結果に。
- ① **約9割の保護者が「子どもの環境への興味が家庭に変化をもたらす」と期待していることが明らかに！
保護者が子どもに期待するのは「実践する・発信する・自ら学ぶ」という主体的な姿勢。**
⇒約9割の保護者が、子どもが環境問題に興味を持つことで、意識や行動に変化が期待できると回答。保護者が子どもに期待しているのは環境知識の習得だけではなく、「実践する・発信する・自ら学ぶ」という主体的な姿勢そのものであることがうかがえる結果に。
- ② **約5割の保護者が「環境問題を子どもとほとんど話せていない」という結果に！
その一方でほとんどの家庭が何らかの環境配慮行動をすでに継続していることが明らかに。**
⇒約5割を超える保護者が環境問題を子どもとほとんど話せていないと回答。一方、家庭内で継続している取り組みとして、回答者のほとんどの保護者が何らかの環境配慮行動を既に実施。
- ③ **約9割の保護者が環境教育の充実を教育現場に期待！
親子で一緒に体験・対話しながら学べる場の要望が上位に。**
⇒約9割の保護者が子どもに環境問題を伝えたいという思いを持ちながらも、教え方がわからないという不安を抱いている実態が明らかに。保護者が教育現場に期待しているのは、「体験学習」や「親子参加型のワークショップ」などの環境への取り組み強化。

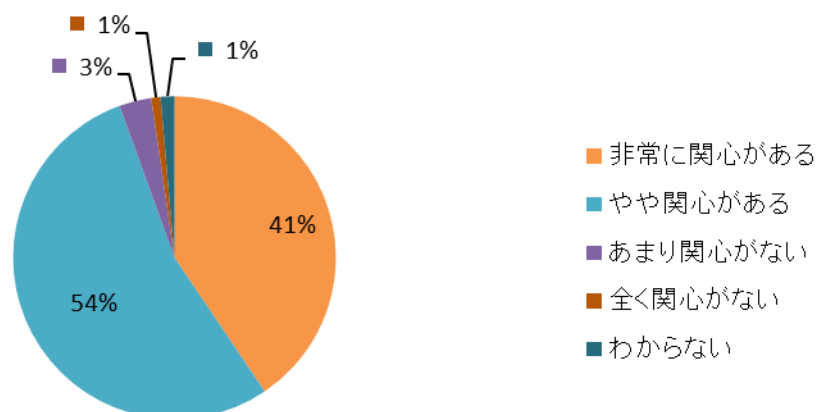
1. **保護者の9割以上がSDGsや環境問題に関心を寄せていることが、明らかに！**

家庭での環境教育への意識の高さがうかがえる結果に。

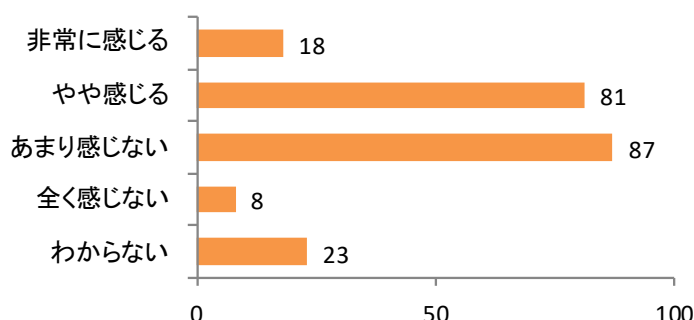
「SDGsや環境問題(地球温暖化、プラスチックごみ等)に対する、あなた(保護者)の関心度を教えてください<SA>」と尋ねたところ、「非常に関心がある」(88)と「やや関心がある」(117)を合わせて約9割以上の保護者が環境問題に関心を持っていることが分かりました。

また、「子どもは学校やニュースを通じて、環境問題に興味を示していると感じますか?<SA>」と尋ねたところ、「非常に感じる」(18)と「やや感じる」(81)を合わせると約5割となり、約半数の保護者が子どもの環境問題への関心を実感していることがわかる結果になりました。近年、学校教育におけるSDGs学習の普及や、テレビ、インターネット、SNSなどを通じた情報接触の増加により、子どもたちが環境問題について知る機会は大きく広がっています。この結果から環境問題への関心が一部の層に限られたものではなく、多くの家庭において共通のテーマになりつつあることがうかがえます。

Q. SDGsや環境問題(地球温暖化、プラスチックごみ等)に対する、あなた(保護者)の関心度を教えてください<SA=217>



Q.子どもは学校やニュースを通じて、環境問題に興味を示していると感じますか? <SA=217>



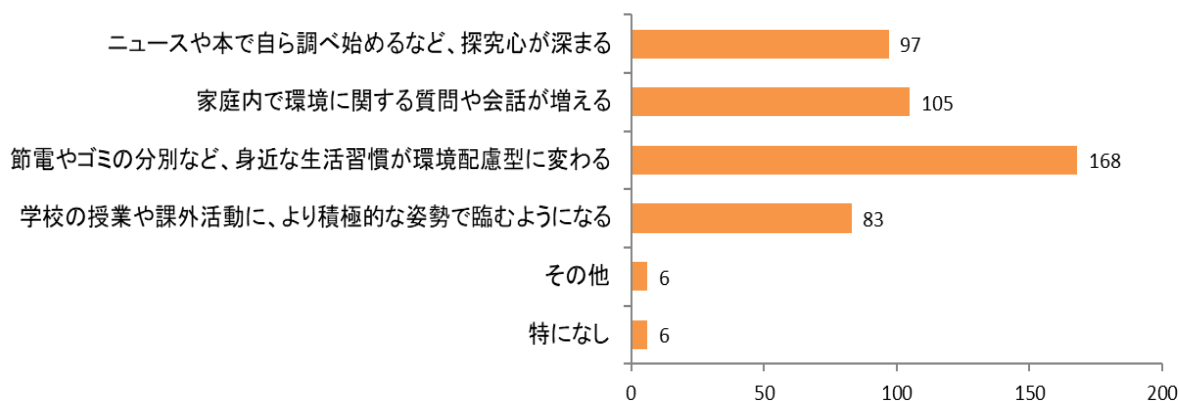
2. **約9割の保護者が「子どもの環境への興味は家庭に変化をもたらす」と期待していることが明らかに！**

保護者が子どもに期待するのは「実践する・発信する・自ら学ぶ」という主体的な姿勢。

「子どもが環境問題に興味を持つことで、意識や行動にどのような変化が期待できると思いますか?<MA>」と尋ねたところ「節電やゴミの分別など、身近な生活習慣が環境配慮型に変わる」(168)と回答が最も多くなりました。子どもが環境問題を「知るだけ」で終わらせず、日常の行動に落とし込み、家族として一緒に取り組みたいという保護者の思いがうかがえます。また、「家庭内で環境に関する質問や会話が增える」(105)、「ニュー

スや本で自ら調べ始めるなど、探究心が深まる」(97)が続き、子どもの興味が家庭の会話を生み、自発的な学びにつながることへの期待もうかがえます。保護者が子どもに求めるのは環境知識の習得にとどまらず、「実践する・発信する・自ら学ぶ」という主体的な姿勢を期待していることが読み取れる結果となりました。

Q. 子どもが環境問題に興味を持つことで、意識や行動にどのような変化が期待できると思いますか？ <MA=217>

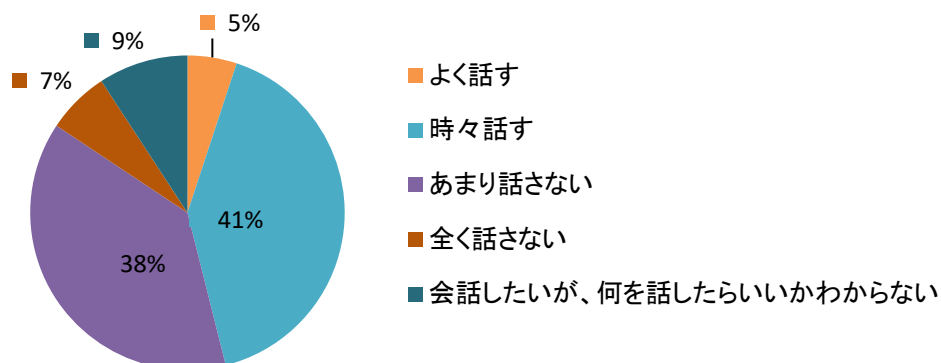


3. 約5割の保護者が「環境問題を子どもとほとんど話せていない」という結果に！

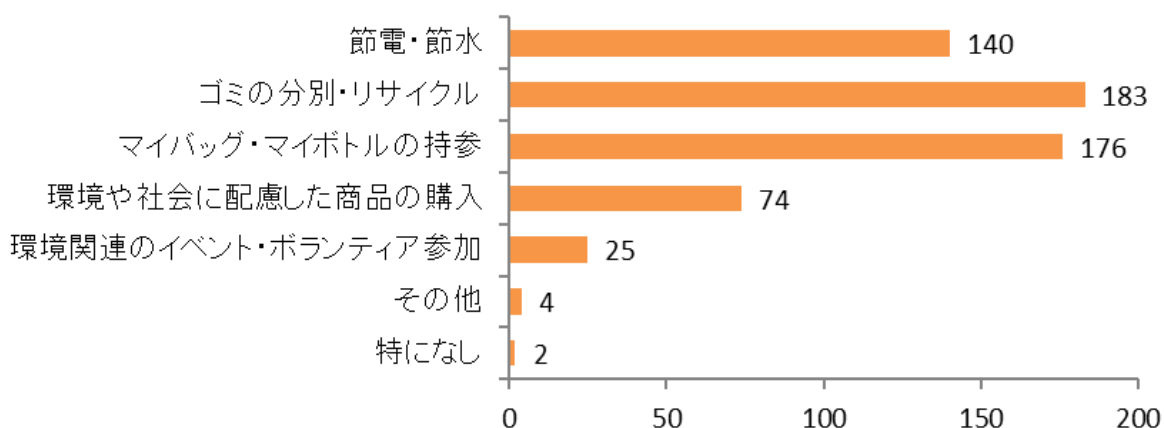
その一方でほとんどの家庭が何らかの環境配慮行動をすでに実施していることが明らかに。

「家庭内で環境問題について親子で会話する頻度はどのくらいですか？ <SA>」という質問では、「あまり話さない」(83)、「全く話さない」(14)、「会話したいが、何を話したらいいかわからない」(20)を合わせると、約5割を超える保護者が環境問題を子どもとほとんど話せていないことが明らかになりました。特に「話したいけれど、何を話せばいいかわからない」(20)と感じている保護者が一定数いることは、会話のきっかけさえあれば対話が生まれる可能性を示唆する結果に。一方、「環境のために、家庭内で継続して行っている取り組みなどはありますか？ <MA>」と尋ねたところ、家庭内で継続している取り組みとして、「ゴミの分別・リサイクル」(183)、「マイバッグ・マイボトルの持参」(176)など、回答者のほぼすべての家庭が何らかの環境配慮行動をすでに継続していることが明らかになりました。「ゴミの分別」や「マイバッグの持参」といった日常の実践を「なぜやるのか」「どんな効果があるのか」という親子の会話のきっかけとして活用することで、行動から対話へ、そして子どもの環境意識の深まりへとつながることが期待できます。

Q. 家庭内で環境問題について親子で会話する頻度はどのくらいですか？<SA=217>



Q. 環境のために、家庭内で継続して行っている取り組みなどはありますか？<MA=217>

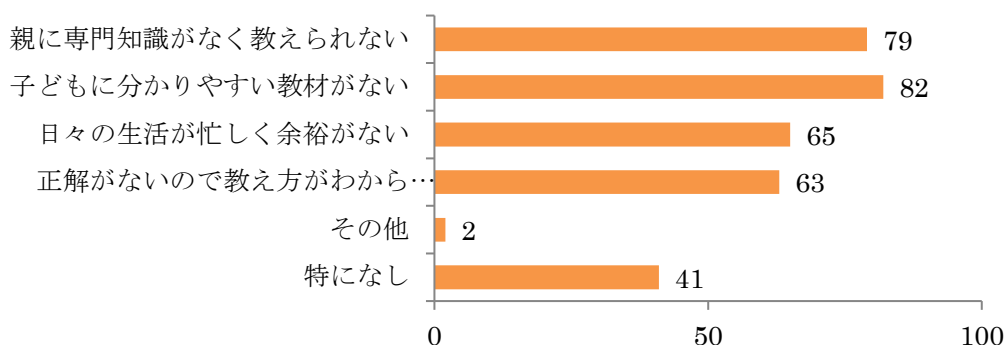


4. 約9割の保護者が環境教育の充実を教育現場に期待！

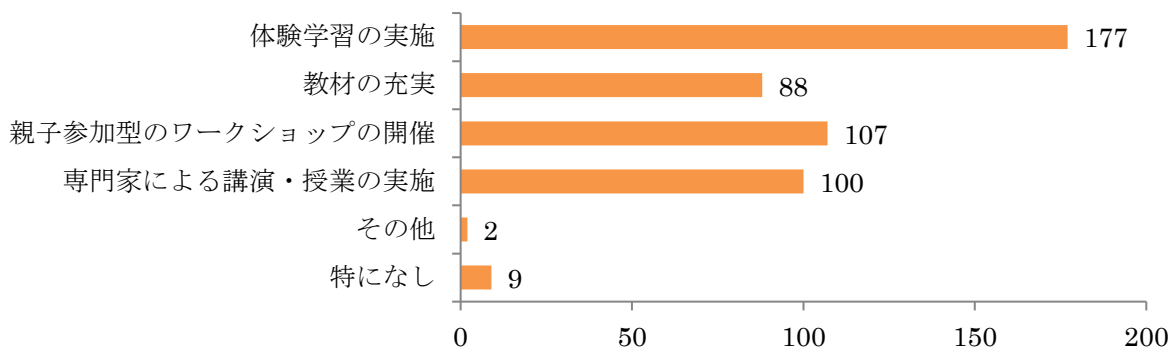
親子で一緒に体験・対話しながら学べる場の要望が上位に！

「家庭内で環境問題について考える時、難しく感じるなどありますか？<MA>」という質問に対して、「子どもに分かりやすい教材がない」(82)、「親に専門知識がなく教えられない」(79)が上位に挙がりました。子どもに環境問題を伝えたいという思いはあるものの、教材や知識、教え方への不安から一歩踏み出せずにいる保護者の姿がうかがえます。また、「今後、学校や塾などの教育現場において、環境問題への取り組みとしてどのような実施を期待しますか？<MA>」と尋ねたところ、約9割の保護者が教育現場での環境への取り組み強化を期待していることが明らかになりました。中でも「体験学習の実施」(177)が最多となり、次いで「親子参加型のワークショップの開催」(107)と続き、子どもだけが体験するのではなく、親子が一緒に体験・対話しながら学べる場への期待が高まっていることがうかがえます。

Q. 家庭内で環境問題について考える時、難しく感じることなどありますか？<MA=217>



Q. 今後、学校や塾などの教育現場において、環境問題への取り組みとしてどのような実施を期待しますか？<MA=217>



【『子ども未来キャリア』概要】

『子ども未来キャリア』は、子どものときから夢や目標を持ち、グローバル社会で必要となる知識と能力を育む、キャリア教育用ボードゲーム教材です。ボードゲームを通じた疑似体験と、スライド教材を活用した学習を組み合わせた「遊び×学び」を融合した内容で、主体的に楽しく学ぶことができます。

■ URL : <https://mirai-career.jp/>

■ 販売対象 : 全国の学童施設や学習塾、学校など、教育関係の企業・組織
子ども向けの体験型イベントを開催される企業等とのコラボレーション

■ 教材対象年齢 : 小学生・中学生・高校生 ※その他要相談



■ 学習テーマ

- ・「教育用！資産形成ゲーム」
- ・「教育用！コミュニケーションゲーム」
- ・「教育用！事業投資ゲーム」

<報道関係者各位>

- ・「教育用！ディスカッションゲーム」
- ・「教育用！おつかいゲーム」
- ・「教育用！情報推理ゲーム」
- ・「教育用！キャリアデザインゲーム」
- ・「教育用！多様性ゲーム」
- ・「教育用！SDGs ゲーム」
- ・「教育用！防災ゲーム」
- ・「教育用！チームワークゲーム」
- ・「教育用！リーダーシップゲーム」
- ・「教育用！シティズンシップゲーム」



【株式会社イー・ラーニング研究所】

名称 : 株式会社イー・ラーニング研究所
本社 : 大阪府吹田市江坂町 1 丁目 23-38 F&Mビル 6F
東京支社: 東京都港区港南 1 丁目 8-40 A-PLACE 品川 1F
代表者 : 代表取締役 吉田智雄
URL : <https://e-ll.co.jp/>

<報道関係者お問い合わせ先>

イー・ラーニング研究所 PR事務局 担当: 鈴木・片岡
TEL:06-6339-4177 FAX:06-6339-4180 MAIL: marketing@e-ll.co.jp